

環境経営レポート

株式会社 三協デリカ

2023 年度

(対象期間 2023年1月1日～2023年12月31日)



熊本製粉グループ
株式会社三協デリカ



JFS-822002237-00



エコアクション21
認証番号 0013421

作成日: 2024年3月30日

目 次

項 目	ページ
ごあいっ	2
環境経営方針	2
組織概要	3
事業・製品の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	6～8
環境経営計画の取組結果とその評価	9～11
各事業所の取組紹介	12
環境関連法規等の遵守状況確認及び評価結果、並びに違反、訴訟の有無	13
緊急事態対応訓練	13
代表者による全体の評価と見直し・指示	14
これまでの環境活動の紹介	14

企業理念



□ごあいさつ

株式会社三協デリカは、1990年創業以来、食品製造業として歩んでまいりました。大手CVS専用工場として、調理麺・惣菜等のデイリー商品を山口県、九州全域に365日供給しております。

安全・安心をモットーに、美味しい商品を時代の変化や、お客様のニーズに対応しながら提供し続けることで、信頼される企業を目指しております。

企業規模が年々拡大の一途を辿り、企業としてますます社会的責任、環境配慮が問われていくことは必然であり、社会の公器としてしっかり対応していく事を義務として取り組んでまいり所存です。

環境経営方針

環境経営理念

株式会社三協デリカは、『すべてはお客様の“ありがとう”のために』を経営理念とし生活者の視点に立って環境と調和を図り、地域に愛され信頼できる企業であることが使命と考えています。

食品企業として、食の安全・安心を届けることはもとより、人々の暮らしがより素敵になるよう地球環境に配慮した企業活動に努めてまいります。

環境保全への行動指針

持続可能な社会の実現に向けて、環境経営システムを構築し、必要な見直しを行いながら環境経営を実践し、継続的改善に努めます。

具体的な取り組みとしては、以下の5分野を重点テーマと定め、全社員が高い環境意識を持ち計画的に取り組んでまいります。

また、この環境経営システムを用いて、SDGs(持続可能な開発目標)にも取り組み、地球環境の保全にも貢献してまいります。

- 1・法令遵守
環境関連法規制を遵守し、環境保全リスクの低減に努めます
- 2・環境負荷の低減
 - ・生産効率化によるCO2排出量削減
 - ・水使用量の削減と浄化機能強化による排水水質の改善
 - ・廃棄物の発生抑制、削減
 - ・生産管理強化による食品廃棄物削減とリサイクル率の維持向上
 - ・化学物質の適正使用・適正管理
 - ・環境に配慮した商品製造の推進
- 3・製品品質(安全性)の向上
HACCPによる衛生管理の徹底
- 4・体制構築・人材育成
環境保全に関する社内体制構築と、社内教育を推進し、従業員の意識向上を図ります
- 5・地域と共生
地域社会とのコミュニケーションを大切にし、地域の環境活動を積極的に推進します

制定日： 2020年4月1日

改定日： 2022年4月1日



代表取締役社長 野崎 裕二

組織概要

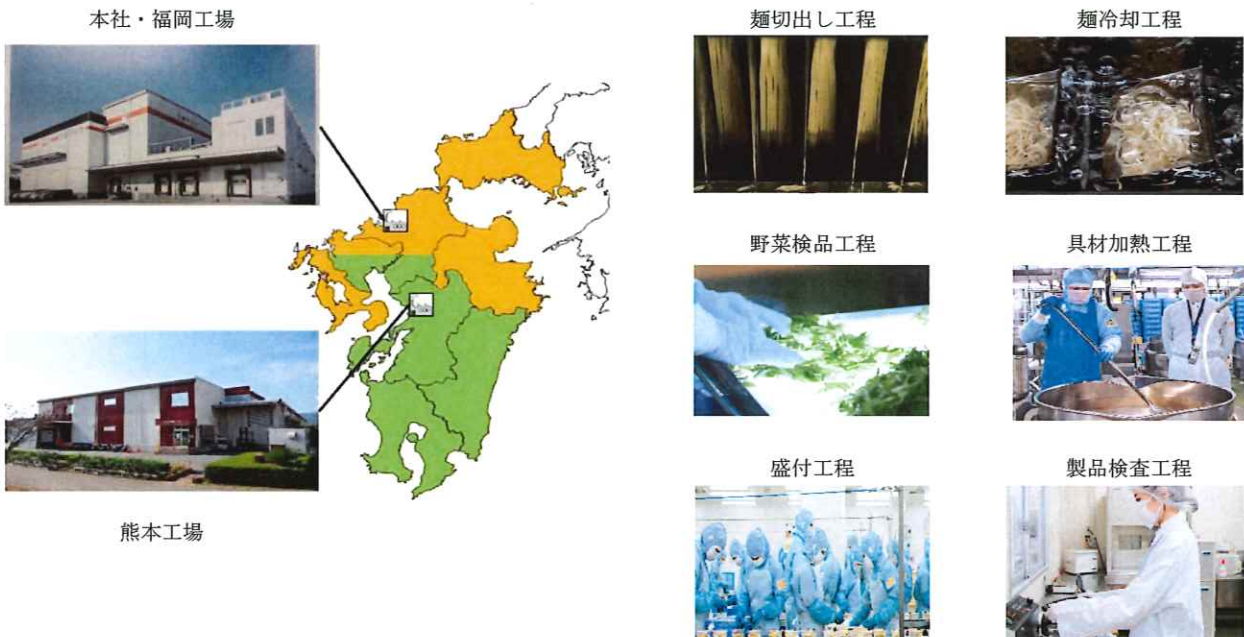
- (1) 名称及び代表者名
株式会社 三協デリカ
代表取締役社長 野崎 裕二
- (2) 所在地
本社・福岡工場 福岡県福岡市東区箱崎ふ頭6丁目8番41号
熊本工場 熊本県熊本市北区和泉町三ツ塚168番14号
- (3) 環境管理責任者及び担当者連絡先
本社・福岡工場 責任者 取締役 本部長 TEL: 092-632-4033
担当者 総務部 FAX: 092-632-4036
熊本工場 責任者 取締役 本部長 TEL: 096-275-2171
担当者 総務部 FAX: 096-275-2172
- (4) 事業内容
コンビニエンスストア向け調理麺の製造
URL: <http://www.sankyoo-d.co.jp>
- (5) 事業の規模
売上高 118 億円 (2023年度)
- | | 本社・福岡工場 | 熊本工場 | 合計 |
|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|
| 従業員 名 | 436 名 | 287 名 | 723 名 |
| 延べ床面積 m ³ | 7,443 m ³ | 3,407 m ³ | 10,850 m ³ |
- (6) 事業年度 1月1日～12月31日

□ 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 株式会社 三協デリカ
対象事業所： 本社・福岡工場
熊本工場

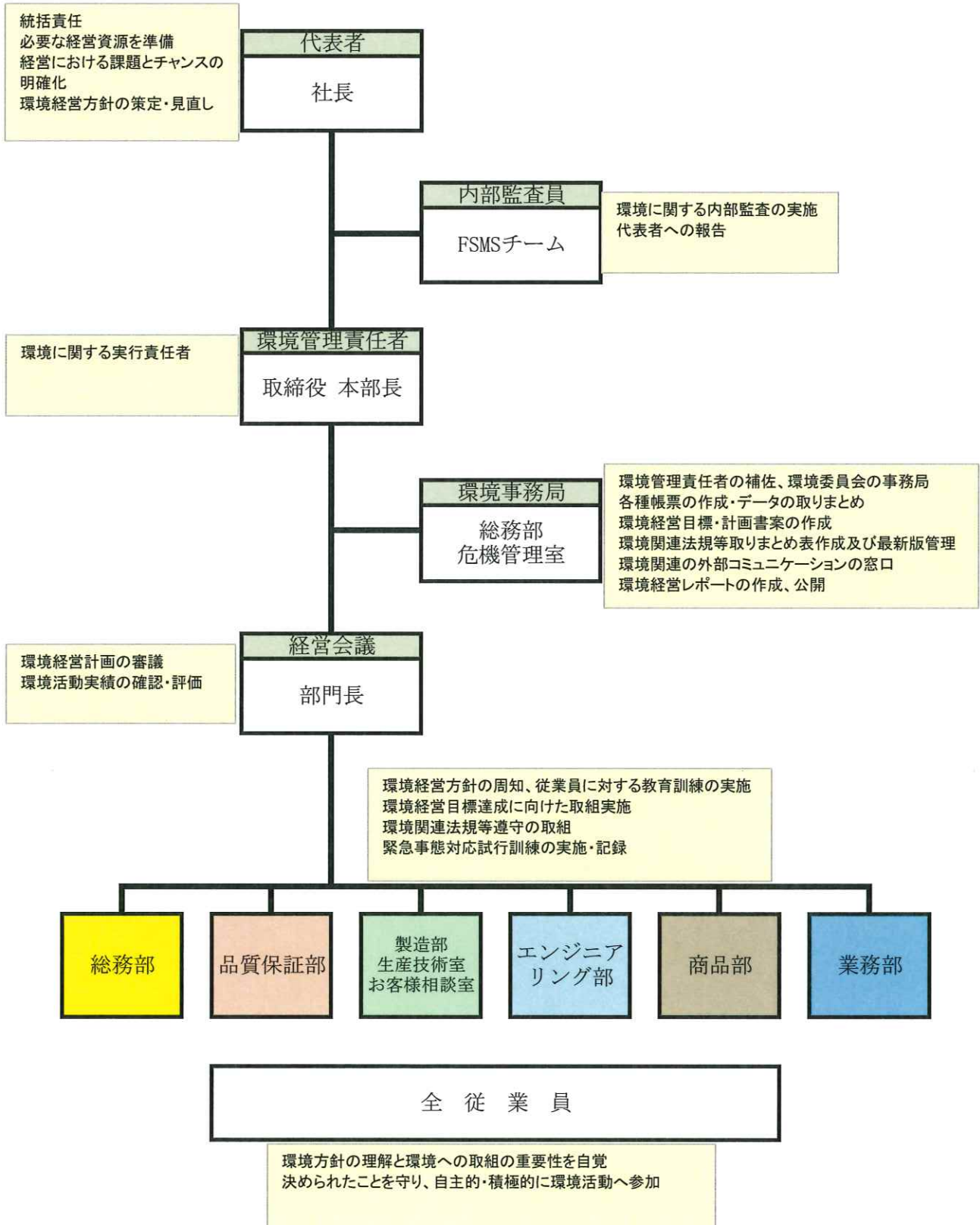
活動： コンビニエンスストア向け調理麺の製造

□ 事業所や製品（工程）の紹介



環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2023年4月1日



主な環境負荷の実績（全社）

項目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	7,665,627	7,613,462	6,930,529
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	289.25	204.89	0.31
産業廃棄物排出量		2848.36	2864.88	2747.69
食品廃棄物				
発生量		1494.09	1,505.74	1,272.85
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		954.24	981.30	1,012.89
熱回収量	t	446.31	371.56	161.92
減少量		93.54	152.88	98.03
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率	%	98.51%	98.77%	99.36%
総排水量	m ³	464,965	477,173	458,805
CO2排出係数 Kg-CO2/kwh		0.382	0.382	0.382
電力会社		九州電力	九州電力	九州電力
採用年度		2021年度	2021年度	2021年度

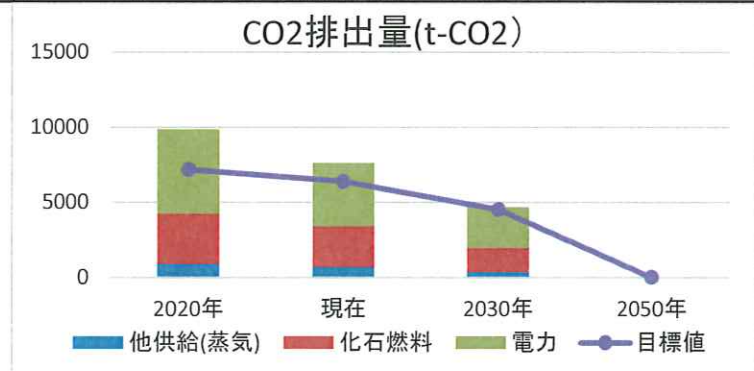
※蒸気の排出係数は、供給先の『箱崎ユーティリティ』2021年度0.0379を採用



カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位：t-CO2

	他供給(蒸気)	化石燃料	電力	対策
2020年	859	3360	5642	省エネ
現在	657	2717	4213	省エネ+ハイブリッド車
2030年	313	1618	2743	省エネ+再エネ電力+太陽光発電+電気自動車
2050年	0	0	0	省エネ+再エネ電力+太陽光発電+電気自動車



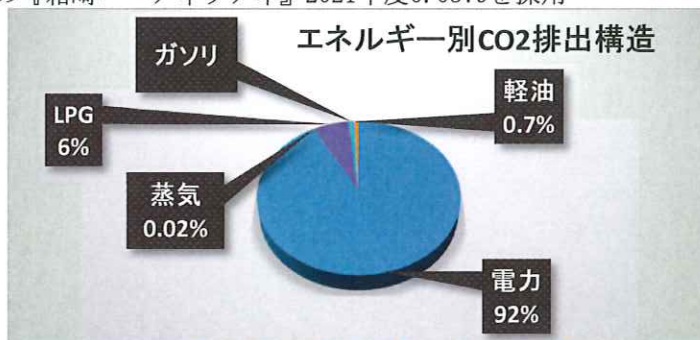
環境経営目標及びその実績（全社）

項目	年度	2019年	2023年		評価	2024年	2025年
		(基準値)	上段：通期 中段：活動期間集計値			(目標)	(目標)
			(目標)	(実績)			
電力による 二酸化炭素削減 売上高原単位	Kwh	12,482,611	11,733,654	11,027,750	○	10,610,219	10,235,741
	基準年度比		94.0%	88.3%		85.0%	82.0%
	Kwh/百万円	971.0	912.8	931.3	×	825.4	796.2
	kg-CO2	4,618,566	4,341,452	4,212,601	○	3,925,781	3,787,224
	基準年度比		94.0%	91.2%		85.0%	82.0%
原単位	kg-CO2/百万円	359.279	337.722	355.765	×	305.387	294.609
蒸気による 二酸化炭素削減 原単位	kg-CO2	1,090	872	657	○	817	785
	基準年度比		80.0%	60.3%		75.0%	72.0%
	kg-CO2/百万円	0.138	0.111	0.091	○	0.104	0.099
A重油による 二酸化炭素削減 原単位	kg-CO2	2,883,440	2,364,421	2,101,470	○	2,018,408	1,931,905
	基準年度比		82.0%	72.9%		70.0%	67.0%
	kg-CO2/百万円	580.358	475.894	458.087	○	406.251	388.840
LPGによる 二酸化炭素削減 原単位	kg-CO2	771,715	493,897	435,653	○	409,009	385,857
	基準年度比		64.0%	56.5%		53.0%	50.0%
	kg-CO2/百万円	60.032	38.420	36.792	○	31.817	30.016
自動車燃料による 二酸化炭素削減	kg-CO2	233,485	183,286	180,149	○	172,779	165,775
	基準年度比		78.5%	77.2%		74.0%	71.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	8,508,296	7,383,928	6,930,529	○	6,526,794	6,271,545
一般廃棄物の削減	t	330.90	307.74	0.31	○	0.33	0.33
	基準年度比		93.0%	0.1%		0.1%	0.1%
廃プラの削減	t	855.45	590.26	823.92	×	633.03	628.76
	基準年度比		69.0%	96.3%		74.0%	73.5%
食品廃棄物の 発生抑制・再生	自主目標		98.0%	99.4%	○	99.0%	99.0%
	食り法目標		95.0%		○		
水道水の削減	m ³	537,223	472,756	452,060	○	445,895	443,209
	基準年度比		88.0%	84.1%		83.0%	82.5%
化学物質の 適正管理	行動目標（次項による）						
環境に配慮した 生産活動	行動目標（次項による）						

主な環境負荷の実績（本社 福岡）

項目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	3,496,515	3,542,565	3,318,269
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	0	0	0
産業廃棄物排出量		1900.39	1888.95	1825.56
食品廃棄物				
発生量		865.3	887.97	829.62
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		865.3	846.18	781.96
熱回収量	t	0	0	0
減量量		0	41.79	47.66
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率	%	100.00%	100.00%	100.00%
総排水量	m ³	233,918	246,434	247,211
CO2排出係数 Kg-CO2/kwh		0.382	0.382	0.382
電力会社		九州電力	九州電力	九州電力
採用年度		2021年度	2021年度	2021年度

※蒸気の排出係数は、供給先の『箱崎ユーティリティ』2021年度0.0379を採用

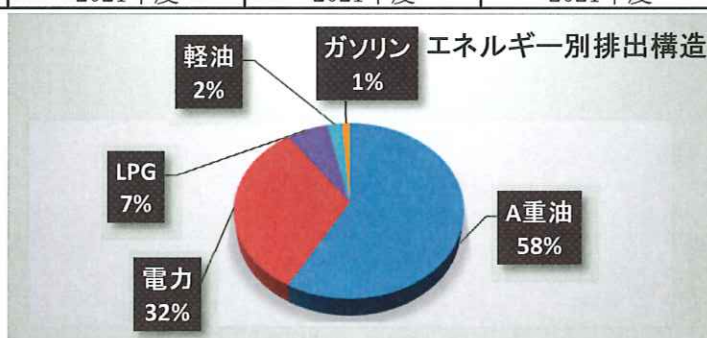


環境経営目標及びその実績（本社 福岡）

項目	年度	2019年		2023年		評価	2024年	2025年
		(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)		(目標)	
電力による 二酸化炭素削減 売上高原単位	Kwh	8,852,352	8,498,258	8,005,828	○	7,701,546	7,435,975	
	基準年度比		96.0%	90.4%		87.0%	84.0%	
	Kwh/百万円	1122.4	1077.5	1103.7	×	976.5	942.8	
	kg-CO2	3,275,370	3,144,355	3,058,226	○	2,849,572	2,751,311	
原単位	kg-CO2/百万円	415.302	398.690	421.623	×	361.313	348.854	
	kg-CO2	1,090	872	657	○	817	785	
蒸気による 二酸化炭素削減 原単位	kg-CO2	1,090	872	657	○	817	785	
	kg-CO2/百万円	0.138	0.111	0.091	○	0.104	0.099	
LPGによる 二酸化炭素削減 原単位	kg-CO2	336,802	213,869	202,984	○	191,977	181,873	
	kg-CO2/百万円	42.705	27.118	27.984	×	24.342	23.061	
自動車燃料による 二酸化炭素削減	kg-CO2	86,177	58,601	56,402	○	53,430	50,845	
	基準年度比		68.0%	65.4%		62.0%	59.0%	
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	3,699,439	3,417,697	3,318,269	○	3,095,796	2,984,813	
廃プラの削減	t	851.94	536.72	579.36	×	570.80	566.54	
	基準年度比		63.0%	68.0%		67.0%	66.5%	
食品廃棄物の 発生抑制・再生	自主目標		100.0%	100.0%	○	100.0%	100.0%	
	食リ法目標		95.0%		○			
水道水の削減	m ³	276,560	244,755	246,060	×	243,372	241,990	
	基準年度比		88.5%	89.0%		88.0%	87.5%	
化学物質の 適正管理	行動目標（次項による）							
環境に配慮した 生産活動	行動目標（次項による）							

主な環境負荷の実績（熊本）

項目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	4,169,112	4,070,897	3,612,261
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	289.25	204.89	0.31
産業廃棄物排出量		947.97	975.94	922.13
食品廃棄物				
発生量		628.79	617.77	443.22
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		88.94	135.12	230.93
熱回収量	t	446.31	371.56	161.92
減量量		93.54	111.10	50.37
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率	%	96.45%	96.99%	98.17%
総排水量	m ³	231,047	230,739	211,594
CO2排出係数 Kg-CO2/kwh		0.382	0.382	0.382
電力会社		九州電力	九州電力	九州電力
採用年度		2021年度	2021年度	2021年度



環境経営目標及びその実績（熊本）

項目	年度	2019年	2023年		評価	2024年	2025年
		(基準値)	上段：通期 中段：活動期間集計値			(目標)	(目標)
			(目標)	(実績)			
電力による 二酸化炭素削減 売上高原単位	Kwh	3,630,259	3,267,233	3,021,922	○	2,904,207	2,795,299
	基準年度比		90.0%	83.2%		80.0%	77.0%
	Kwh/百万円	730.7	657.6	658.7	×	584.5	562.6
	kg-CO2	1,343,196	1,208,876	1,154,374	○	1,074,557	1,034,261
	基準年度比		90.0%	85.9%		80.0%	77.0%
原単位	kg-CO2/百万円	270.349	243.314	251.635	×	216.279	208.169
	kg-CO2	2,883,440	2,364,421	2,101,470	○	2,018,408	1,931,905
A重油による 二酸化炭素削減 原単位	kg-CO2/百万円	580.358	475.894	458.087	○	406.251	388.840
	基準年度比		82.0%	72.9%		70.0%	67.0%
LPGによる 二酸化炭素削減 原単位	kg-CO2	434,912	280,518	232,669	○	217,456	204,409
	基準年度比		64.5%	53.5%		50.0%	47.0%
自動車燃料による 二酸化炭素削減 原単位	kg-CO2	87.536	56.461	50.718	○	43.768	41.142
	基準年度比		64.5%	58.1%		50.0%	47.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	4,808,856	3,977,554	3,612,261	○	3,429,740	3,285,475
一般廃棄物の削減	t	330.9	294.50	0.31	○	0.33	0.33
	基準年度比		89.0%	0.1%		0.1%	0.1%
廃プラの削減	t	3.51	2.56	244.56	×	3.44	3.42
	基準年度比		73.0%	6967.5%		98.0%	97.5%
食品廃棄物の 発生抑制・再生	自主目標		97.0%	98.2%	○	98.0%	98.0%
	食リ法目標		95.0%		○		
水道水の削減	m ³	260,664	229,384	206,000	○	203,318	202,014
	基準年度比		88.0%	79.0%		78.0%	77.5%
化学物質の 適正管理	行動目標（次項による）						
環境に配慮した 生産活動	行動目標（次項による）						

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標：○達成 ×未達成 原単位目標：○達成 ×未達成
 活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組計画	評価	取組結果とその評価、次年度の取組計画
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	売上原単位は未達となったが、削減目標94%に対し実績91.2%と取組が結果として表れた。然しながら2030年までの削減目標(2013年度対比50%減)には課題が多い。日々の省エネ活動、省エネ・高効率タイプへの機器更新は勿論ですが、来期においては、省エネ診断を受けながら更なる削減に向けて取り組んでいく。再エネやCO2フリー電力も検討する。
原単位目標	×	
・LED照明への交換実施	○	
・計画的な間欠運転による冷凍機稼働時間の削減	○	
・機器アイドルタイム管理による削減	○	
・番重洗浄室・包装室・肉処理室空調機更新	○	
・製麺空調機・加工室給排気更新	○	



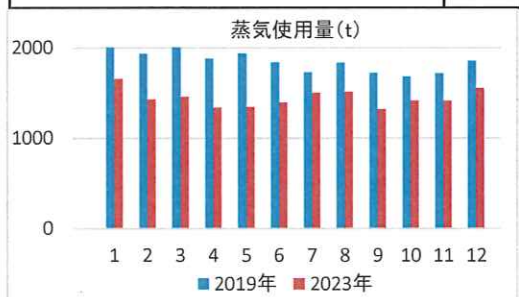
SDGs関連項目

取組紹介

冷凍機・冷蔵庫設定温度を、季節に合わせて変更仕分け室においては、出荷完了後、一部区間の空調を止めるなど、環境負荷低減に取組みました。

電力使用量	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	774,890	719,610	841,322	882,217	1,105,661	1,204,729	1,405,208	1,526,643	1,312,858	1,072,905	836,917	799,651	12,482,611
2023年	665,847	597,215	709,268	757,822	939,721	1,104,099	1,383,469	1,410,977	1,168,604	883,068	728,558	679,103	11,027,750

取組計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
蒸気による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	売上原単位達成、削減目標80%に対し、実績77.6%と目標達成した。機器のアイドルタイム管理や、製麺機稼働時間管理は継続し取組み削減効果が表れた。来期においても、アイドルタイム管理、少ないエネルギーで生産可能なラインへ製造移管、生産性向上など行いながら、更なる削減に向けて取り組んでいく。外部にある蒸気導入配管への保温も検討する。
原単位目標	○	
・製麺茹で室・番重洗浄室機器空運転時間削減	○	
・配管・ドレントラップ保守点検	○	
・配管・ヘッダー部の保温	△	
・生産性向上、再生産低減による稼働時間削減	△	



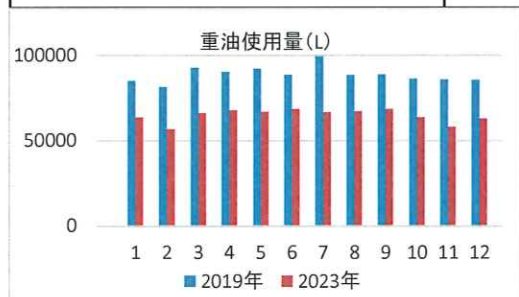
SDGs関連項目

取組紹介

製麺・加工工程において生産性向上や、再生産低減に向けた取組みを、従業員への教育強化もしながら取組みました。売上高原単位目標、使用量削減ともに目標達成した。

蒸気使用量	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	2,148	1,933	2,053	1,881	1,935	1,840	1,728	1,835	1,721	1,682	1,716	1,856	22,329
2023年	1,656	1,430	1,458	1,338	1,347	1,393	1,502	1,511	1,319	1,413	1,410	1,555	17,332

取組計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
重油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	削減目標82%に対し実績72.9%、売上原単位ともに目標達成し、大きく改善が進んだ。省エネ小集団チームの取組みが、全従業員へ波及し実を結んだ結果となった。来期においても、アイドルタイム管理や、蒸気圧力再見直し、誤作・再生産低減管理を行いながら、更なる削減に向けて取り組んでいく。
原単位目標	○	
・スチームトラップをピンチトラップに変更	○	
・蒸気供給圧力を見直し適正管理を行う	△	
・機器立上げ時間を管理し、アイドルタイムを削減	○	
・湯沸かし時の時間管理(沸かしっぱなしの抑制)	○	



SDGs関連項目

取組紹介

小集団活動を行いながら現場の問題を洗い出し。問題の改善や、実績数値など外国人従業員にも分かりやすいように、多言語を図りながら従業員へ周知を行い、削減目標を達成しました。

重油使用量	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	85,000	81,400	92,600	90,300	92,200	88,650	99,250	88,500	88,850	86,150	85,600	85,500	1,064,000
2023年	63,550	56,650	66,050	67,700	66,650	68,450	66,500	67,100	68,400	63,650	57,850	62,900	775,450

LPGによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	削減目標64%に対し実績56.5%、売上原単位ともに目標達成した。削減活動を行う中で、現場には無駄にエネルギーを使用していることもあり、今期そこに手を打つ活動を行い結果が出ました。来期においても引き続き、台数管理・アイドルタイム管理・再生産低減活動を行いながら、更なる環境負荷低減に向けて取組む
原単位目標	○	
・機器立上げ時間管理し、アイドルタイムを削減	○	
・製造数量に応じた機器台数管理	○	
・フライヤー作業生産性向上による稼働時間削減	○	



SDGs関連項目

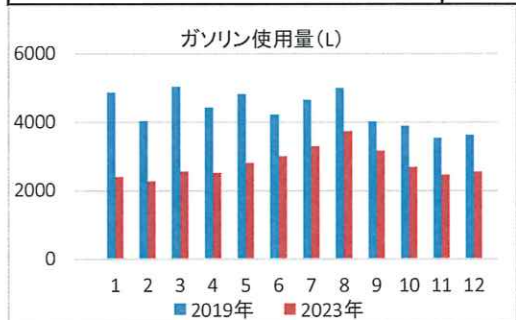


取組紹介

機器アイドルタイム削減に取組みました。フライヤーにおいては、製造数量に合わせた機器台数管理も行い、製造開始前に従業員へ周知し、環境負荷低減に取組みました

LPG使用量	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	21,616	20,279	24,525	24,716	23,901	20,335	19,565	22,980	20,520	19,398	18,984	20,421	257,238
2023年	10,349	12,937	10,361	10,564	12,415	14,172	12,917	12,758	13,171	14,307	9,868	11,401	145,218

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標78.5%に対し実績77.2%と全社ベースでは目標達成したが、熊本工場が0.01%未達となった。送迎ルートや回数見直しも行き、上期は減らせたが繁忙期において、減らせなかったことが要因としてある。来期においては、今期取組みを継続するとともに、工場間材料搬送回数を見直し削減に向けて取組む。
・急発進、急加速防止のための教育（安全面含む）	○	
・ご指摘削減による社用車利用回数削減	△	
・発注・在庫管理精度向上により利用回数削減	○	
・Web会議継続活用による工場間移動削減	○	



SDGs関連項目



ガソリン	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	4,866	4,031	5,024	4,419	4,821	4,208	4,642	4,995	4,013	3,889	3,533	3,613	52,053
2023年	2,380	2,262	2,548	2,515	2,801	2,996	3,284	3,726	3,156	2,674	2,455	2,540	33,336

軽油	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	1,757	2,524	3,894	3,556	3,697	3,550	4,426	5,369	3,939	3,975	3,457	3,547	43,691
2023年	3,033	2,728	2,864	3,142	3,262	3,839	4,313	4,615	3,946	3,370	3,227	1,508	39,849

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標88%に対し実績84.1%と目標達成した。日々の巡回で無駄水の抑制や、機器アイドルタイム管理を徹底したことで達成ができた。来期においても今期取組み継続と、野菜洗浄機増設を行い、品位向上と合わせ水量適正管理に努めます。
・製麺機稼働開始・終了時間管理	○	
・省エネ小集団活動による使用量削減	○	
・漏水箇所の点検・補修	○	
・茹で冷却層過冷却抑制による使用量削減	○	
・清掃時の無駄水抑制	○	



SDGs関連項目

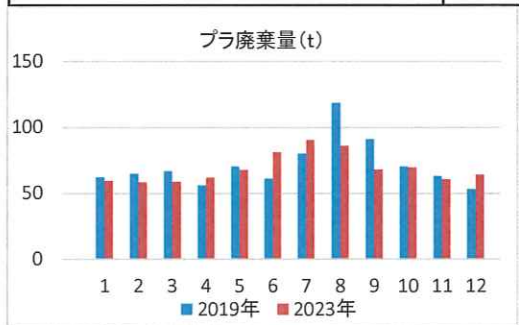


取組紹介

製麺工程における、冷却用差し水管理について、ソフト・ハード両方ともに改善し、水使用量削減に取組みました。

水使用量	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	41,119	38,077	44,666	45,256	48,653	48,630	49,424	53,664	47,842	44,202	39,163	36,528	537,223
2023年	34,998	32,177	36,331	36,330	39,150	40,865	45,141	45,053	39,088	36,607	33,237	33,084	452,060

廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	目標未達となった。在庫管理や発注精度向上により削減できた部分もあるが再生産抑制など課題は多い。今期の取組みを来期も行うが、中期計画として、廃プラは現在焼却処理となっているが、再資源化へ向けた取組みや、安全面を担保した上で、ビニール袋を使わずにすむ方法がないか検討する。
・再生産抑制による容器、包材使用量削減	△	
・在庫・発注精度向上による廃棄削減	○	
・ビニール材質、サイズ見直しによる廃棄重量削減	○	
・規格設計時のプラスチック容器削減	△	



SDGs関連項目

取組紹介

ビニール材質や、サイズの見直しを行い、廃棄重量削減に取組みました。

廃プラ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	62.1	64.7	66.6	56.0	70.1	61.2	79.8	118.3	90.8	70.1	62.9	53.1	855.5
2023年	59.1	57.9	58.6	61.9	67.6	80.8	90.2	86.0	67.7	69.5	60.7	63.9	823.9

食品廃棄物発生抑制・再生利用率向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	再資源化実施率目標98%に対し実績99.4%と目標達成、廃棄量自体も前年対比で15%減となった。予測発注精度も向上したが、期限切れで野菜の廃棄が出るなど改善が必要。来期も今期取組を継続し、人による盛付から充填機を使用した盛付に一部変更し、排出量削減に向けて取組む。
・歩留まり改善活動	○	
・見込み生産、過剰準備の抑制	○	
・不良品低減による廃棄削減	△	
・野菜残渣圧搾による減量化	○	
・在庫・発注精度向上による廃棄削減	△	



SDGs関連項目

取組紹介

人による作業バラつき抑制のため、原材料使用基準を明確化、従業員へ周知し、歩留まり改善に取組みました。

食品廃棄	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	138.0	138.4	153.3	148.3	159.7	150.3	158.1	165.7	159.7	147.3	138.4	140.8	1,798.0
2023年	91.9	96.6	98.3	98.3	110.9	118.2	129.1	121.1	107.7	108.7	91.4	100.6	1,272.8

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	紙の再資源化、ゴミ分別強化、DX推進によるペーパーレス化に取組み結果として表れてきた。来期においてもDX推進による、紙使用量の削減に向けて取組む。
・分別の徹底	○	
・DX推進によるペーパーレス化	○	

一般廃棄物	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019年	28.6	29.1	29.0	26.3	27.1	26.5	27.1	32.7	26.4	26.0	25.3	26.8	330.9
2023年	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.28	0.00	0.00	0.00	0.00	0.31

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・リスクアセスメント勉強会	○	化学物質管理者講習を受講し理解を深めさせました。来期も1名受講予定、PRTR化学物質対象も拡大されるため、SDS最新版を確認し、来期においても事故発生防止に取組む。
・SDS最新版取得及び更新管理	○	
・PRTR法化学物質追加に伴う対象物質把握適正管理	△	
・従業員教育（保護具着用の徹底）	○	
・代替物質への変更	△	

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・DX推進によるペーパーレス化	○	横持輸送見直しを行った、実施は2024年からとなるが年間53000kg-CO2排出量削減見込み。GAP仕入は前年対比9%増となった。GAP認証制度をより理解するため、これまでに2名GAP指導員資格を取得した。
・長鮮度化に向けた生産工程見直し	△	
・工場・センター間横持輸送見直しによる台数削減	△	
・過剰仕入れによる野菜廃棄再利用検討	△	
・環境に配慮したGAP認証圃場からの仕入れ向上	○	

各事業所の取組紹介

<本社・福岡工場>



従業員への周知方法として朝礼や掲示版を活用、外国人従業員も多いため、取組結果を○、×判定やグラフ等、分かりやすく伝えることに、取組みました。



始業点検・サニテーション記録など手書き帳票記録保管から、デジタル記録保管に切り替え、DXを進めながらペーパレス化や生産性向上に取り組んでいます。



人感センサー3か所追加、ドア開放防止のため、手動ドアを自動ドアに1か所変更し節電に取り組みました。

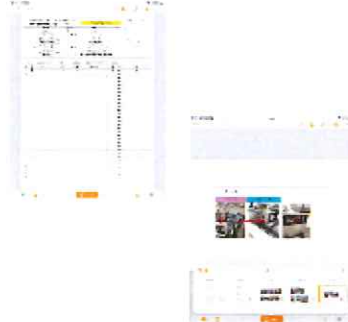


新たな化学物質規制が導入されるにあたり、福岡・熊本両工場共に、改めて講師を招き研修を実施しました。PRTR法に該当しない物質への変更や、労働安全向上に取り組みました。

<熊本工場>



製麺室や加工室の空調、吸排気設備の更新を実施しました。2019年度比90%目標に対し、実績83.2%と目標達成した。



始業点検・サニテーション記録など手書き帳票記録保管から、データ記録保管に切り替え、DXを進めながらペーパレス化に取り組んでいます。



休憩室における、ゴミの分別強化に取り組みました。外国人従業員が理解できるように、多言語化も行い、リサイクル向上の意識づけを行っています。



CO2排出削減として今期目標としていたLEDへ100%交換が完了しました。その他機器更新と合わせ、前年対比で電力によるCO2排出が8%削減できました。

環境関連法規等の遵守状況確認及び評価結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	
廃棄物処理法	一般廃棄物・産業廃棄物（動植物残渣・廃プラ・汚泥・廃油）
食品リサイクル法	食品廃棄物
容器包装リサイクル法	容器包装
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁法	煮湯設備、洗浄設備
下水道法	除害施設
浄化槽法	浄化槽
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
省エネ法	特定事業所
化学物質排出把握管理促進法	殺菌剤・洗浄剤

◎環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

◎食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。








なお、違反、訴訟等も過去3年間ありません。

□外部からの環境上の苦情・要請等

外部からの苦情や、要請等はありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：火災の発生			
■実施日：2023年4月26日	■実施場所：加工室 ロータリー		
■参加者：社員28名 パートナー47名 合計75名			
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練 初期消火手順、消火器設置場所、避難経路、消防への通報、重大事故発生時における社内連絡体制確認を実施			
■評価：75名参加 発生から点呼完了まで7分13秒 手順書変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし 避難経路について各所に掲示は行っており訓練時に改めて確認を行った。課題として、外国人従業員も多数いるため新規入職時において、工場内避難経路等においても事前に教えておくことが必要だと感じた。火災発生防止対策は勿論ですが従業員が安全に、スムーズに避難ができるように努める。			
■実施状況の様子			
初期消火訓練	初期消火訓練	避難訓練	点呼安否確認
			

緊急事態の想定：茹で冷却室で機械にオイル補充中、オイルポットを落下させオイルが流出						
■実施日：2023年12月13日	■実施場所：製麺茹で冷却室					
■参加者：社員3名 パートナー1名 合計4名						
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 処置訓練 <input type="checkbox"/> 通報訓練 茹で冷却室高圧洗浄機へオイルポットで給油中に落下させてしまい、オイル流出想定						
■評価：4名参加 手順書変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし 漏洩事故の備えがない中で訓練実施。 周辺にある物を利用し、漏洩は阻止できたが流出量次第では漏洩リスクが残る結果となった。 製麺室へ給油マットの常備を検討						
■実施状況の様子						
高圧洗浄機へ給油	オイルポット落下し流出	ダスターで囲いを作り応急処置	ダスターで囲いを作り応急処置	ダスターと吸油紙で処置	吸油確認後ダスター、吸油紙回収	廃棄処置
						

代表者による全体の評価と指示

実施日： 2024年3月27日

2023年度全社ベースでの計画達成状況として、廃プラが削減目標未達、売上原単位では電力が目標未達となった。エコアクション21に取り組み始め4年となり、これまでハード・ソフト両面から改善を行い結果も出つつあります。然しながら2030年度に向けた目標達成には課題も多くあり、課題解決のため専門家から助言をいただくこと、今期の実績を踏まえ削減目標を見直すように指示をしました。環境問題は経営最重要課題でもあり、エコアクション21を活用し、全社挙げてカーボンニュートラルやSDGsに取り組んでまいります。

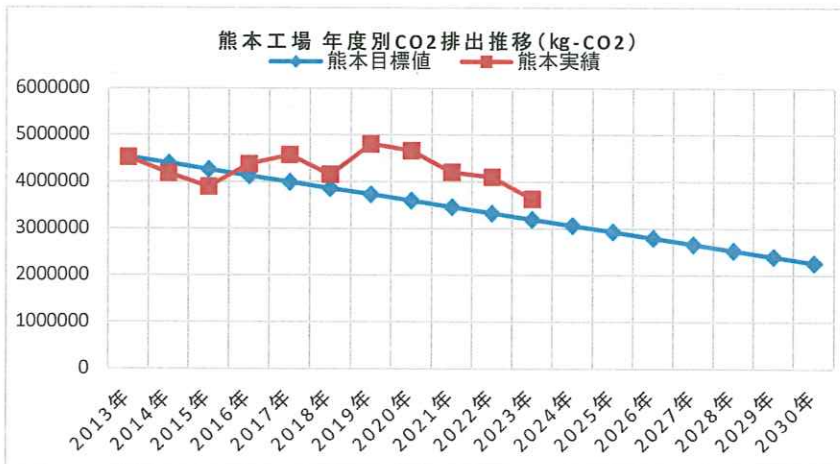
環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

今期実績を踏まえ削減数値目標見直し

これまでの環境活動の紹介（各事業所年度別CO2排出推移）



2030年までに2013年度対比50%削減を目標に取り組んできました。2023年度段階で29%削減としましたが実績は24%と5%の乖離がある。これまでに、省エネ機器更新や、全従業員への意識づけ、ルールの遵守、メンテナンス強化等、改善を行ってまいりました。目標達成には厳しい状況にありますが、2024年には節電ユニット導入、空調機更新、工場内ドア自動化を計画しており、更なる削減と目標達成に向けて取り組んでまいります。



熊本工場においては、高効率タイプへの機器更新や小集団活動の活性化等によって、年々排出量は削減できていますが、目標と実績には9%の乖離がある。2024年においては、コンプレッサー更新、空調機更新、吸排気設備更新を予定しており、2030年目標に向けて取り組んでまいります。